

2018年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：韓国 梨花女子大学

留学期間：2018年2月～2018年12月

私が韓国留学を決めた理由は、スピーキングが苦手だったからである。周りに韓国人しかいない環境に行けば、自然とスピーキング力が付くのではないかと考えて留学に行きました。実際最初の半年は自信もなく、殻に閉じこもってしまい、韓国人の友達もほとんどいないまま終わってしまいました。しかし、このままではだめだと思い、思い切って友達を作ろうと積極的に韓国人に話しかけて友達を作りました。

最初は思うように韓国語が出て来なくて大変な思いをしましたが、どんどんすらすら韓国語が出てくるようになって、やはり実際に使うことが一番の語学力上達の近道なんだと感じました。でも学校で友達を作るのは非常に難しかったです。チーム発表がある授業でも、韓国で日本よりも良い成績を取るのに必死な気がします。そのため外国人がいることがマイナスとなってしまい、結局外国人は外国人でチームを組んで活動することがほとんどでした。そのため、学校で作るというよりは、自ら積極的に外に出なくてはいけないと感じました。

そして授業面については、韓国語の授業は私が履修したのは想像より簡単で、正直あまり意味があったとは言えませんでした。後期では高級を取ろうとしましたが、履修人数が少なくて取ることが出来ませんでした。そのため、韓国語の授業は取らず、なるべく多くの韓国語開講の授業を取ろうと思い、授業をほかの留学生よりも多く履修しました。確かに韓国語で授業を受けて100%理解することはとても大変です。その上、専門用語となると全くわからないことも少なくありませんでした。そのため私は前もって掲示されているシラバスを授業前に全て日本語に訳してから授業を受けていました。そうするとわからない単語も少なくなるため、授業の理解度もかなり違ったと思います。それが出来なかった授業では、わからない単語に線を引いて授業の後に調べて、教授に改めて聞きに行くこともありました。教授は思っているよりも留学生にやさしいので、わかるまで教えてくださるので非常に助かった記憶があります。テスト勉強に関しては、単語で用語を覚えるよりも長文で覚えることで、予想と違う単語が出てでも対応することが出来ました。時間はかかりますが、一番の対策だったと思います。

そして、韓国留学を終えて一番感じているのは、精神面での成長です。韓国に行く前までは、自信もなく韓国語を勉強しているにも関わらず積極的に使うこともなく、韓国でも通じなかったらどうしようという不安から必要以上に話すことがありませんでした。でも、それでは全く成長しないと思ったため、積極的に話してみようと思い、思い切って話してみたら思っているよりも伝わるし、韓国人は理解してくれ、手伝ってくれてそれからの語学の成長は自分で感じるほどの成長でした。そのことから、挑戦することが出来るようになりました。他にも、韓国では今までの友達や親に頼ることは出来ません。そのため自分で何とかしなければなりません。今までどれだけ人を頼って生活していたのか、実感しました。しかしこの一年間で自分のことは自分で出来るようになったのではないかと感じています。

初めて海外生活をしてみて、今まで自分一人で生きているのではなく、親、友達、大学の先生方、いろいろな方にお世話になっていたからこそ今の私がいるということを知ることができました。留学をすることが出来たのも金銭面などで協力してくれた親、辛い時にたくさん話を聞いてくれた友達、留学を決めるにあたり、相談に乗ってくれた先生方、推書を書いてくださった先生方、そして、留学前から、留学中、そして留学後もお世話になっている国際課の方。本当にいろんな人に支えられているからこそ留学を終えることが出来ました。他にも日本を客観的に見ることで日本の良さや、改善点などを感じることが出来ました。他にも多国籍の中で生活したことで、異文化理解にも繋がったと思います。確かに理解しがたいようなことがあったり、日本ではマナー違反だったりすることも平気で起こります。しかし、これは文化の違いであるため、理解する必要があります。最初は大変でしたが途中からは異文化を楽しむことが出来ました。このような貴重な経験を、帰国後も忘れることなく生活していきたいと思っています。